

官公庁／自治体 様

「旅する編集部」
タイアップ企画のご案内

2023年5月
講談社

本企画の狙い

クーリエ・ジャポンは100を超える海外メディアの記事を翻訳・配信し、日本の読者に「世界の潮流」「多様な価値観」をお届けしています。

読者の多くは、ビジネスにおいてもプライベートにおいても「旅」をする機会が多く、海外にも頻繁に足を運んでいる傾向があります。

クーリエ・ジャポンが2016年から始めた“旅する編集部”が読者の支持を得ているのも、旅をしながら働くという実験的なワークスタイルに関心があるからだと考えております。

行動制限期間が終わり、改めていま考える「これからの働き方」を読者へお届けします。


編集部員がご指定の場所にかがいで、今の時代にマッチしたその土地の魅力を体験し、記事や動画、SNSで読者へ発信いたします。

ぜひ次ページ以降もご覧いただき、ご興味いただけますと幸いです。

編集部みんなで東京を離れて サテライトワークを実践してきました


詳細はP10以降に記載

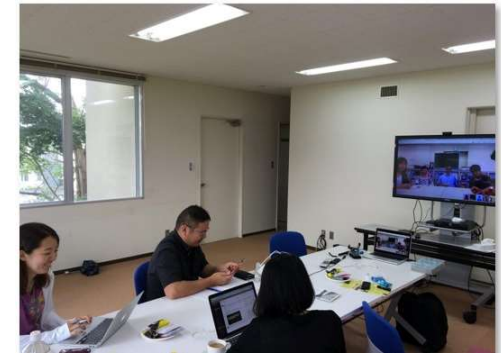
2016年7月
徳島県・神山町

Supported by  DUNKSOFT




2016年8月
北海道・斜里町

Supported by  Y's STAFF



2017年3月
宮城県・気仙沼市、
石巻市

Supported by  ETIC.



2017年10月
鳥取県・鳥取市

Supported by  THE NIPPON FOUNDATION
For Social Innovation
TUMI



2022年11月 岐阜県養老町へ

仕事も観光もできる町づくりを目指す岐阜県養老町。

編集部員が施設でのテレワークや地元の観光プログラムを体験し、養老町発の「新しい働き方・休み方」を実践しました。

Article

COURRIER! ログイン 新規登録

2min | 2022.11.8

新しい働き方×地方創生の現場へ
久しぶりの「移動編集部」 今回は岐阜県の養老町を訪ねます



クーリエ・ジャパン
Text by Hiroaki Minami

こんにちは、編集長の関です。

いま、新幹線のなかでこの原稿を書いています。向かうは岐阜県の養老町。今回はこの養老町にあるテレワーク施設「YOROffice（ヨロフィス）」に編集部を移して、記事を発信していきます。

クーリエ・ジャパン編集部はこれまで「新しい働き方を実践する」ことをテーマに、徳島県の神山町や北海道の斜里町、宮城県の沿岸部、鳥取県鳥取市など、日本の各地に編集部を移動してきました。


ここ2年半ほどは、コロナ禍によって編集部でまわって移動するのが難しい状況が続いていましたが、今回、ようやく“旅する編集部”の企画を復活することができました。



COURRIER! ログイン 新規登録

BUSINESS 7min | 2023.2.3

編集部メンバーがプチ移住＆ワーケーション体験
組織が結束する「新しい働き方と休み方」が岐阜県養老町から生まれる



4日間のワーケーションで心身はどう変わった？(写真は養老町美穂駅前で)

画像ギャラリー

クーリエ・ジャパン (PR)
Text by COURRIER Japon

「新しい働き方」の弊害とどう向き合う？

コロナ禍を経て、リモートワークを取り入れた新しい働き方は世に浸透しつつある。クーリエ・ジャパン編集部も例に漏れず、2020年に完全リモートワーク制に踏み切った。働く時間と場所の制限がなくなったことで、海外在住の編集部員が加わり組織の多様化が進むなど、これまでになかった変化が生まれた。

だがその反面、メンバー同士の顔が見えづらくなり、ささいな相談ごとや雑談のハードルが上がった。共に働くメンバーの感情の機微は、画面越しのチャットや通話では感じにくい。オンライン上のみで信頼関係を築くのが難しいのも事実だ。

世界を見渡しても、同じ悩みを抱える組織は増えている。海外メディアは、これまで以上に「旅

など、流動的な会話が生まれはじめた。仕事以外でも、養老町の名物である焼肉や地元の温泉を楽しみながら雑談を交わした。偶発的な会話だからこそ、得られる気づきや発想も多い。

必要に応じて、オンラインでは補えない交流や体験を共有できる場を確保することは、リモートワークが主流となっても——いや、主流となっていまだからこそ欠かせない。

養老町が持つ「空間の力」が、リモートワーク時代の日本の組織に「結びつく機会」を与えてくれる。そしてそれは、個人の人生においても組織においても、長期的な生産性を産み出してくれるはずだ。



SNS

COURRIER! Courrier Japon / クーリエ・ジャパン
2022.11.09 ● 巻

おはようございます。クーリエ・ジャパン編集部はただいま、岐阜県の養老町に移動しております。久々の“移動編集部”です。https://courrier.jp/inf...と見る




クーリエ・ジャパン @CourierJapon · 11月10日
久々の実現となった「旅する編集部」。岐阜県養老町のテレワーク施設「ヨロフィス (YOROffice)」で、本日もお仕事をしています！
yoroffice.jp

昨日は、久保田新員工房さまで木工体験。生木をナイフで削り、スプーンを作る体験をしました。
kubota-kagu.jp



クーリエ・ジャパン @CourierJapon · 11月9日
おはようございます。クーリエ・ジャパン編集部はただいま、岐阜県の養老町に移動しております。久々の“移動編集部”です。



courrier.jp

クーリエ・ジャパン @CourierJapon · 11月9日
最初のアクティビティは、「福寛地蔵」での陶芸体験。板皿と焼のせっ餅(拓餅)のたたら作りを習いました。講師の堀田寛さんはあの「ノリタケ」で長らくデザイナーとして働きながら陶芸もされてきたという、根っからの好き好きで、情熱的に語ってくださいました。instagram.com/handmade.fukuc...



クーリエ・ジャパン @CourierJapon · 11月10日
今回は、五感を刺激する体験を取り入れた「新しいワーケーションの形」を模索するべく、モニタープログラムに参加しています。

ふだんはズームでの顔を合わせる機会がありませんが、チーム内で活発な交流が生まれています。



「他人事」ではないことを 編集部が実践して伝えます

記事

FEATURES

世界中から愛される「奇跡のジーンズ」を生んだ工場の秘密 | 気仙沼「オйкаワデニム」の大冒険

Text by Ayaka Ueda / COURRIER Japon 2017.3.14

サメの皮と漁網で作ったフィッシングバッグを考え出した「オйкаワデニム」3代目代表取締役の及川洋

BEGINやイチローといった日本の著名人が愛用するだけでなく、海外でも丈夫で長持ちすると評判の高い「オйкаワデニム」。同社は「ここ」でしか作れない「メイド・イン・ジャパン」の製品を生み出しているという。東北の港町に佇む小さな工場の製品が、なぜ世界中に広がったのか。

オйкаワデニム誕生の地、宮城県気仙沼市を訪ねた。

波に揉まれ、重油を吸い込んで20km流されても1ヵ所のほつれもなかった「奇跡のジーンズ」の名を耳にしたことがあるだろうか。

高台から静かな港を望む「オйкаワデニム」。「世界で一番丈夫」と称される同社の製

公式SNS

COURRIER Japon / Kodansha Ltd
2016年6月29日

どこでも仕事ができるのなら、編集部員みんなで東京を離れて働くこともできるはず……。そんなことを証明するためにクーリエ・ジャポン編集部は7月の第3週目に四国の山里でサテライトワークに取り組みことにいたしました。

サテライト編集部の拠点となるのは、以前に取材したことのある徳島県の神山町。元縫製工場のコワーキングスペースを編集部にし、古民家を改装した宿で編集部員みんなが宿泊します。

クーリエ・ジャポン編集部は、四国の山里に移転します（とりあえず1週間だけです）。

海外メディアから記事を厳選！
クーリエ・ジャポン

リーチ184,645人 結果を確認

👍👎👏 2,065 コメント16件 シェア153件

👍 いいね! コメントする シェアする

編集部ブログ

BLOGS

編集部を宮城県に移動して、6年が過ぎた「東北のいま」取材しました

2017.3.11

石巻市にあるシェアオフィス「IRORI (イロリ) 石巻」にて

編集部の増保です。今週の特集「1週間で世界1周」の記事をアップしていたその裏で、クーリエ・ジャポン編集部も実は1週間の「旅」に出ていました。

行き先は海外ではなく、宮城県。2016年7月の徳島県神山町、9月の北海道斜里町に続く移動編集部企画の第3弾として、気仙沼から南三陸、雄勝、女川、そして石巻をめぐり、今日で6年がたった東日本大震災の被災地取材していただいたのです。

現地で得た「生の情報」をリアルタイムで発信します

SNSで寄せられた読者の声からは その想いが伝わったことが実感できました

「実践するのですね。こりゃ、画期的だし、すごい」

「クリエイティブになるにも、自然はたくさん助けてくれる！！」

「とにかくワクワクします。実際どうなのか、教えてください！」

「記事にするだけでなく、自ら移転するなんて…すごいね」

「いいですね！こういう働き方にとってもあこがれます」

「型にはまらない形づくり、楽しみにしています」

「レポートお待ちしております。(^o^)」

「空気も食べ物も美味しいみたいです！」

「自分がこんなのやったら面白いなって言ってたのを実現してくださって嬉しい」

「satellite workいいな～」

「出版界にクリエイティブな嵐を起こしてくださいね」

「すばらしい！」

「業種によっては東京以外で仕事ができることを実証してください」

「本業以外に興味のあるプロジェクトでも自分を活かせる。そんな社会になりたい」
…etc.



メニュー概要

実施メニュー①

御自治区の魅力を編集部員が体験・再発見し、20-30代の感度の高いビジネスパーソンへ広くお伝えします。

1. 「旅する編集部」コンテンツ協力

実際にお伺いするエリア、取材内容等について、ご相談の上進めさせていただきます。記事公開後はクーリエ・ジャポンのサイト内で誘導をかけると同時に、Facebook, Twitterにも投稿。ご希望があれば御社のサイトへも記事内のテキストリンクにて誘導させていただきます。

2. 現地からブログやSNSで情報を発信する際に御社名を掲載

今回の企画が御社の支援のもとに実現できたことを、ブログやSNSにおいて発信する際、Supported by ○○○○ といった形で掲載します。

3. 動画制作

一連の取材を動画撮影。最終的に3分程度のダイジェスト動画にまとめクーリエ上で展開することで、御地区の魅力をさらに深く訴求します。（動画は二次利用可能）

上記一式 500万円（税別）

実施メニュー②（動画なし）

御自治区の魅力を編集部員が体験・再発見し、20-30代の感度の高いビジネスパーソンへ広くお伝えします。

1. 「旅する編集部」コンテンツ協力

実際にお伺いするエリア、取材内容等について、ご相談の上進めさせていただきます。記事公開後はクーリエ・ジャポンのサイト内で誘導をかけると同時に、Facebook, Twitter にも投稿。ご希望に応じて御社のサイトへも記事内のテキストリンクにて誘導させていただきます。

2. 現地からブログやSNSで情報を発信する際に御社名を掲載

今回の企画が御社の支援のもとに実現できたことを、ブログやSNSにおいて発信する際、Supported by ○○○○ といった形で掲載します。

上記一式 300万円（税別）

掲載イメージ

記事

PR

どこにいても働ける時代が到来！ 日本の地方を活性化させるために必要なのは「開かれた対話と創造の場」だ | PR

提供：ダンクソフト

2016.10.16



PHOTO: ZHUIDIFENG / GETTY IMAGES

Googleのエリック・シュミット会長は2025年の世界について、著書『第五の権力』のなかでこんな予測を発表している。

「80億人を超える世界人口のほとんどがインターネットにアクセスできるようになる」

あとわずか10年あまりで、世界のどこにいてもインターネットに接続できる環境が整うというわけだ。そうなれば、私たちのワークスタイルにも大きな変化が生まれるのは間違いないだろう。

新しい働き方を推進し、テレワークのシステム支援などを手掛ける株式会社ダンクソフトは、日本の地方でも仕事ができる環境が整備されるように積極的に取り組んできた。

SNS

COURRIER Japon / Kodansha Ltd

2016年7月12日

徳島県の神山町に編集部のみんでやってきました。神山に到着した後、まず立ち寄ったのは「カフェ・オニヅカ」。以前はアップルで働いていた齊藤さんが経営するビストロで、移住後の生活をお聞きしました。

開業から約2年半。今ではお店も予約でいっぱいになるほど賑わっているのですが、あえて週休2日だったところを最近、週休3日に変更したそうです。その理由を、齊藤さんは「仕事以外でやりたいプロジェクトをそれぞれのスタッフが持っているから」と当然のように言っているのけます.....

Supported by DUNKSOFT



神山町のサテライト編集部はこんなところですよ
海外メディアから記事を厳選！
クーリエ・ジャポン

リーチ60,766人

動画



2016年7月「徳島県・神山町」では、サテライトサービス・テレワーク導入支援を行っている株式会社ダンクソフト様にスポンサーいただきました。

- ・ダンクソフト様が手掛けるテレワーク関連イベントの告知をクーリエに記事掲載。
- ・滞在期間中、関連するFacebookやブログの末尾にSupported by DUNKSOFT 記載。

<https://www.youtube.com/watch?v=mnZx2gKRXSQ>

過去の実施事例

過去事例

IT企業のサテライトオフィスが集まる神山町では
ネット回線があれば場所を選ばない仕事が増えたことや
移住者との交流で聞いた生の声を伝えました



2016年7月
徳島県・神山町



過去事例

2011年に被災した宮城県の気仙沼市と石巻市では
この6年間に前向きに生きてきた人たちの軌跡と
被災地を自分の目で見ることの大切さを伝えました



2017年3月
宮城県・気仙沼市
宮城県・石巻市



人口が日本で一番少ない県「鳥取」
多くの外国人観光客が鳥取まで来る訳
どの地方よりも進む国際化を伝えました



2017年10月
鳥取県・鳥取市



クーリエ・ジャポンとは

<https://courrier.jp/>



クーリエ・ジャポンは「世界の潮流」と「多様な価値観」を知るために、世界中のメディアから厳選した記事をお届けする有料会員制ウェブメディアです。

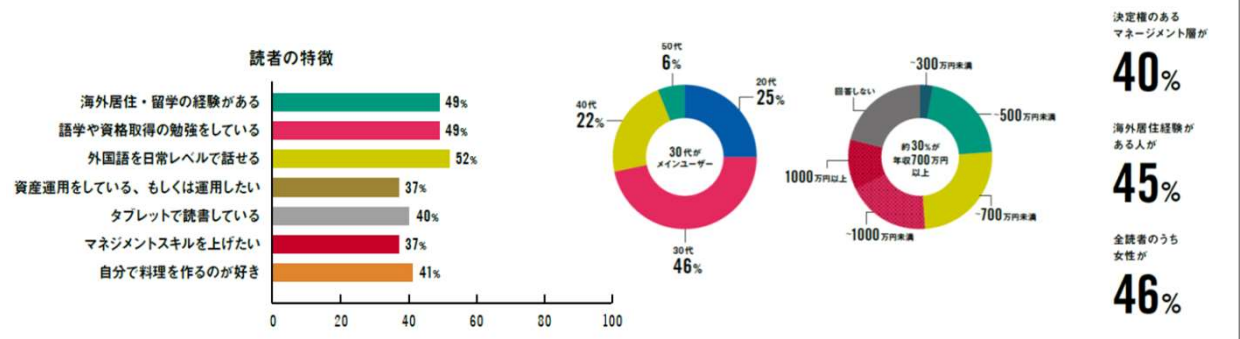
「ニューヨーク・タイムズ」「ガーディアン」「ル・モンド」をはじめ、世界中のメディアから記事を厳選し、読者が忙しい日々のなかでも素早く、そして正確に内容が掴めるよう、丁寧に翻訳した記事を掲載しています。

テーマは政治からビジネス、カルチャーまで。なかでもSDGs やLGBTQといった社会の諸問題は、ダイバーシティへの意識の高まりを先んじて捉え、真っ先に取り上げてきました。

国が違えば意見が異なるのもあたりまえ。ひとつの出来事を多面的に紹介するのがクーリエ・ジャポンの特徴です。

クーリエ・ジャポンの読者層の中心は30代~40代のグローバルに活躍するビジネスパーソンです。

海外市場の変化に敏感な意思決定者であるマネジメント層、自己投資に積極的な読者が多く、15,000人ほどの有料会員（月額980円・税別）が登録しています。



お問合せ

企画に関するお問い合わせ

講談社 第一事業局 コミュニケーション事業第一部 小原 勲
TEL:03-5395-3642
sales_courrierjp@kodansha.co.jp

クーリエ・ジャポン <https://courier.jp/>

媒体資料 https://ad.kodansha.net/media/image.html?filename=20221207140559_37233489.pdf

企画予定一覧 <https://ad.kodansha.net/detail/35/>